

イベント・ボランティアによる地域活動の活性化と地域コミュニティの広がり

3年3組23番 中西杏菜
3年4組31番 古坂夏萌
3年4組37番 山内凜

Keyword:「コミュニティ」「地域活性化」「若者」「イベント」「ボランティア」

1.はじめに

地域のコミュニティを広げる方法として、その地域のイベントやボランティアに参加することがよく挙げられる。実際、「顔は知っているが話したことがない人と話せた」や、「地域の情報を知れる」などの声もある。年代によってそれぞれ感じる利点も変わってくる。若者は人脈を広げることができたり、様々な人と繋がり、知らなかった世界や問題を肌に触れたりすることで視野を広げることができる。高齢者も地域のことを知ることは勿論、若者と繋がることや、体を動かすことにより心身の健康にも繋がる。また、その地域のイベントやボランティアに参加した人がショッピングモールや宿泊施設などを利用することによる地域の経済活性化や、SNSの投稿雑誌やテレビ等で取り上げられることにより地域の宣伝効果にも繋がる。これらの理由によりイベント・ボランティアは地域を活性化させることができると考える。しかし、宣伝の仕方によって参加者が少なかったり、若者の興味が低下している。また、シニアガイド、第一生命経済研究所より、近年コロナウイルスによるイベントの規模縮小により中止が理由で地域の活性化の大きな力となるイベントやボランティアが過疎化してきたことが分かる。そこで私たちは地域のつながりや経済の活性化を強めていくために、なぜイベント・ボランティアの参加率が低下しているのか、この問題を解決するにはどうすればいいのかについて探究することにした。

2.序論

まず本当にイベントは地域のコミュニケーションを広げられるのかに対して、岡本(1992)は「イベントが、その企画実施者にとっても、利用者にとっても、直接的な体験や人と人との直接的な接触・コミュニケーションの機会となることである。」と述べている(岡本包治『イベントによる地域活性化』株式会社ぎょうせい,1992)。

上記からイベントやボランティアはコミュニケーションの場であることが分かる。ではイベント・ボランティアの過疎化を解消するためにはどのようにすればよいのか。私たちは現在のイベントやボランティアが抱える問題を調査した。近年のボランティア活動への参加者は26%程だという。(引用:シニアガイド)なぜボランティアへの参加率は低いのか。1番の理由として時間がないという理由が挙げられている。(54.6%)続いて経済的負担がある(28.4%)、十分な情報がない(26.3%)、手続きがわかりにくい(24.7%)、一緒に参加する人がいない(13.2%)など様々な理由がある。(引用:内閣府NPOホームページ)また、ボランティア活動への興味・関心が薄れており、20代のボランティアの参加率は11.1%(引用:NPONEWS)という結果や、情報がないという相談が10代や20代に多い(引用:NPONEWS)という意見より、特に若者の参加者が少ないことが分かる。イベント産業においても新型コロナウイルス拡大によってイベント数が大幅に減少しており、商売・宿泊などのサービス業の売上の低下が見られる他、開催している地域イベントの知名度が低く、参加率が少ないということが分かった。これらのことより、私たちは若者の興味の低さについて注目し、地域の活性化のために若者の参加率を上げることを目的として探究を進めた。

3.本論

私たちは、イベントやボランティアと若者の繋がりやそれらの現状を調査することにした。そこで、イベント、ボランティアへの参加率や、それらに対する関心、興味などを身近な若者である国

際高等学校の3年生を対象にアンケートを実施した。まずイベント・ボランティアに一度でも参加したことがあるか調査した結果、イベントに参加したことがある生徒が88.4%、ボランティアに参加したことがある生徒が60.5%であった。これらの結果を見るとイベント、ボランティア共に今までに一度は参加したことがある人が多いことが分かり、参加率が高いように見える。しかし、どのようなものに参加したことがあるか調査したところ、幼少期の頃に行ったものや学校の活動で行ったものなどが多く、近年で自発的に参加している人は少ないことが読み取れた。また、イベント・ボランティアに対する印象を調査した結果、イベント・ボランティア共に「みんな楽しめそう」、「賑やか」、「やりがいがある」などの良い印象もみられる中、「めんどくさい」、「大変そう」、「時間がない」、「混んでいそう」などの悪い印象もいくつか見られた。このようなマイナスな印象を解決するためにどのようなイベントやボランティアだと参加したいと思うのかアンケートを取ったところ、「コミュニケーションが取れる」、「幅広い年代の人達が楽しめる」、「様々な考えを持つ人と繋がれる」、「特典がある」、「人や自分のためになる」、「達成感がある」、「参加しやすい」といったようなイベント・ボランティアに参加したいという意見があった。このアンケートの結果より、どのようなイベント・ボランティアがあるのか詳しく知らない生徒が多数いることが分かった。そして、地域やその周辺を活性化させる方法として、より多くの人に知ってもらうことが重要であると考え、まずは身近な若者である学校の生徒に知ってもらうことから始めることにした。元の課題として若者の興味の低下が挙げられていることから、私たちは生徒それぞれの好きな事とイベントを繋げることが重要だと考えた。そこで私たちは若者の地域のイベントへの関心や、興味を引くような、質問に答えることによって一人一人の興味に合う奈良県のイベントを提案できる「イベントQ&Aポスター」を作成した。例えば動物が好きであれば、鹿の角切りを見ることができるイベント、インスタ映えを求めるのであればライトアップされた平城京を見ることができる天平祭といったように、個人の趣味嗜好にあったイベントを見つけられるようなポスターだ。このポスターは配色やデザインにこだわり、できるだけたくさんの人の目に留まるようにした。また、実際にイベントに参加してもらえるように、提案したイベントの概要や日時、参加費などの詳細を掲載したポスターを別に作成し、これら2枚のポスターを昇降口や各学年の廊下、購買近くなどの人目につくような場所に掲示した。その後、どのくらいの人が見てくれたのかアンケートを国際高校3年生に取った。その結果として、3割程度の生徒しか見ておらず、またポスターの内容をよく見てくれた生徒は2割程度だという結果が得られた。その理由として、ポスターを貼っていることに気付かない生徒が多いほか、目に入っても字が多くて読まない人が多いという意見が挙げられた。また、様々な地域のイベントも紹介して欲しいという意見も多くあった。このように成果を発揮できなかった点もあったが、ポスターの興味・関心を調査したところ、ポスターを見た人の中で約8割の生徒がイベントについて興味を持ってくれたことや、カラフルでかわいい、おもしろいなどの良い印象を与えることもできた。

4. 結論

私たちはイベント・ボランティアによる地域活動の活性化と共に地域のコミュニティを広げることができるのか、という問いに対し探究を進めた。参考文献より、たくさんの年代や様々な考えを持った人と関わることにより、地域活動は地域のコミュニティを広げることができるだけでなく、運営者、参加者にとってもメリットがあることがわかった。また地域活動への参加率の低いことが問題であり、特に若者の参加率の低さについては興味の低下が原因となっている。私たちは若者の地域活動への参加を促すために、身近な国際高校の3年生からアンケートを取り、そのアンケートの結果を元に2つのポスターを作成した。その後、ポスターにより地域活動への認識がどのように変わったのかを調査するためにもう一度、アンケートを取った。結果、ポスターを見た生徒の多くはイベントやポスターに対して良い印象を持ってくれた。しかし、今回の探究では主に奈良の北部のイベントのみに限定しており、一部のイベントしか紹介することができず、生徒の満足度を十分に得ることができなかった。そのため、今後の活動ではポスター掲示後の意見を参考に、イベントだけでなくボランティアについてまとめたり、より広い地域に焦点をあてようと考えて

いる。また、ポスターを目に留まる場所に貼る、読みやすいようにする、内容を工夫をするなどのことを意識し、より興味を引くことができるようなポスターを作成する予定だ。

5.終わりに

私たちは今回の探究を通し、多くのことを学んだ。例えば、以前までは一つの問題や事柄について深く考えることが多かったが、広い視点を持つことが重要だと考えるようになった。また、探究内容・探究方法をファミリーで考え、解決に向けて実行に移す行動力を養うことができた。今後も、イベント・ボランティアの課題解決に近づけるように探究を続けていきたい。また、今回の探究で養った力を使い、社会に貢献できるようになりたいと考えている。

6.参考文献

岡本 包治『イベントによる地域活性化』株式会社ぎょうせい,1992

シニアガイド『ボランティア活動の参加者は26%。地域に密着した活動が中心』

<https://seniorguide.jp/article/1072228.html/>,2017.07.30

株式会社第一生命経済研究所『With コロナの地域コミュニティ』

<https://www.dlri.co.jp/report/ld/210836.html/>,2022.11.01

内閣府NPO ホームページ『平成26年度 市民の社会貢献に関する実態調査』

https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/h26_shimin_chousa_01.pdf/,2015.03.13

NPONEWS『ボランティアに参加しない理由は「時間がない」「情報がない』

<https://nponews.jp/volunteer/volunteer-data/>,2017.03.27